2011年7月号　Vol.83

KOBE KAISEI HOSPITAL

神戸海星病院ニュース

まぶたのはなし

眼科医長　関向 大介

「眼の調子が悪い。」
眼科の外来ではよく耳にする言葉です。
皆さんはいかがでしょうか。
何だか「眼がおかしいな」と思われたことはありませんか？

「眼」は、眼球だけを指す言葉ではありません。眼球と脳を結ぶ視神経も「眼」の一部ですし、眼瞼（まぶた）をはじめ、睫毛（まつ毛）、涙腺（涙を作ります）、涙道（余分な涙を鼻へと送ります）、結膜（眼球の表面とまぶたの裏を結んでいます）、外眼筋（眼球やまぶたを動かします）など、付属器と呼ばれる様々なものが一緒に「眼」を形づくっています。

「眼の調子が悪い」時、我々眼科医は、これら全てのものを診察し、診断をして、治療を行います。

中でもまぶたは、眼球を守るだけでなく、人の顔の印象を決める上でも重要な役割を果たしています。まぶたの異常には、「できものができる」「腫れる」「痙攣する」「下がる」「上がる」などの種類がありますので、少しご紹介します。

最初に、まぶたに「できものができる」です。“めばちこ（ものもらい）”がその代表ですが、細菌感染による『麦粒腫』と脂腺の閉塞による『霰粒腫』とがあります。何度も繰り返す場合などに『脂腺癌』という癌である可能性もあり、注意が必要です。

次に、まぶたが「腫れる」です。涙腺や、眼窩と呼ばれる眼の奥の部分、その炎症や腫瘍が原因である場合が多いです。原因が直接は見えないため、MRIやCTなどの画像検査や、血液検査が手助けとなります。

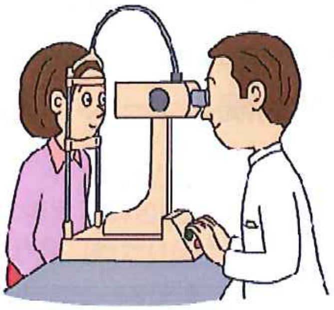
3つ目に、まぶたが「痙攣する」です。疲れている時などに、ぴくぴくする程度であれば心配はいりません。ですが、絶え間なくまばたきをしてしまう、眼を開けていられない、など症状が重い場合には、『眼瞼痙攣』という病気の可能性があります。ボトックスという注射を用いた治療が必要で、当院でも受けられます。

4つ目は、まぶたが「下がる」です。『眼瞼下垂』と呼ばれ、様々な原因があります。多くの場合、手術による治療が可能です。当院では日帰り手術も行っています。

最後に、まぶたが「上がる」です。左右の眼を比べた時に、まぶたが下がっている方が異常と思ってしまいがちですが、上がってしまう病気もあります。『バセドウ病眼症』がその代表で、必要に応じ注射や手術で治療を行っています。

眼科は、月曜日から土曜日まで、外来を行っています。

まぶたはもちろん、「眼の調子が悪い」場合には、いつでも眼科にご相談下さい。



Profile

せきむかい　だいすけ

神戸大学医学部卒
神戸大学大学院医学系研究科卒
【医学博士】
☆ 日本眼科学会専門医
☆ 神戸大学非常勤講師
☆ 隈病院非常勤医師
☆ ボトックス治療認定医

臨床検査技師のお仕事って？

検査室の採血や生理検査室でお会いする白衣を着た職員は、検査を専門に行う臨床検査技師です。看護師やレントゲン技師とよく間違えられますが、地味ながらも重要な役割を担っています。

主な業務は、採血、輸血、検体検査、生理検査、病理検査等です。

これだけは知っておきたい病院の検査

検査は大きく、検体検査・病理検査・生理検査に分かれます。

【検体検査】 検体検査は患者様から採取された検体で検査を行います。材料は、尿、便、血液、喀痰など様々です。

◎血液一般・凝固検査：主に、血液中の白血球数、赤血球数、血小板数、ヘモグロビンなどを測定し、貧血や炎症がないかどうかを調べます。また、凝固検査では出血傾向がないかどうかを調べます。

◎一般検査(尿・便他)：尿では、蛋白、糖、潜血などを測定し、腎臓機能障害を調べます。たかが、尿検査！と思われがちですが、尿からは以外に多くの情報が得られます。便では、便潜血や中卵の検査を行います。便の中のわずかな血液を検出することによって、胃がんや大腸がんの早期発見につながる場合もあります。

◎生化学検査：血液中の蛋白質、脂質、糖質、各種酵素、電解質を測定し、全身の健康状態を調べます。

【病理検査】 病理検査は大きく病理組織診断・細胞診断・病理解剖の3つに区分されます。

◎病理組織診断：胃や大腸の内視鏡検査を行った際に病変部より小さな組織を採取し、その組織標本を作製し顕微鏡で観察して癌かどうかを診断します。また、皮膚や乳腺、前立腺からも一部の組織を採取し病変を診断します。

◎細胞診断：喀痰や尿中に含まれる細胞を集めたり、子宮の一部から細胞を擦り取って標本を作製し染色を施し顕微鏡で観察を行い、癌細胞があるかないかを検索します。これは癌の早期発見に重要な検査となっています。また、乳房のしこりや皮下腫瘤に針を刺して細胞を採取し含まれる細胞から病変の診断を行います。

◎病理解剖：不幸にして亡くなられた患者さまをご家族の承諾を得て解剖させていただき、亡くなった原因や病気の広がり、治療の効果などを調べます。
当院検査室では神戸大学医学部分子病理学教室の病理医グループが病理診断されます。

【生理検査】 心電図や超音波など患者様の体に触れて行う検査の事を総称して生理検査といいます。

◎心電図検査：心電図では心臓のリズムの異常（不整脈）のほか、心筋梗塞の時の壊死範囲や、壊死した心筋が修復される過程などがわかります。狭心症などは、胸痛発作が起こっている時以外は正常時と変りがなく、心電図検査を行ってもあまり異常が発見できず診断が容易にできません。そこで患者様にある種の運動をしてもらい心臓に負荷をかけて心電図を記録します。心電図上のわずかな変化で診断をすることができます。

◎超音波検査：体に害のない超音波を使って各臓器をリアルタイム画像で見る検査です。当院では3台の超音波装置があり、腹部・乳腺・頚動脈・甲状腺・下肢静脈・心臓・表在の超音波検査を実施しています。

◎聴力検査関係：当院では耳鼻科外来において以下のような検査を実施しています。標準料力検査（気導聴力、骨導聴）、語音聴力検査、チンパノメートリー、あぶみ骨反射、内耳機能検査（ＳＩＳＩ検査）

※ご紹介した検査は当院で行っている検査の一部です。検査についてお知りになりたいことがあれば、院内で行っている「いきいき健康教室」でお話していますので、是非ご参加ください。

神戸海星病院ニュース　7月号　2011年　7月　1日　発行

医療法人財団 神戸海星病院
〒657-0068 神戸市灘区篠原北町3-11-15 http://www.kobe-kaisei.org/
TEL 078（871）5201(代表) 責任者 辻本 武志　編集責任者 森元 秀敏